

令和6年度に検討した内容

【資料6】

■矢吹町学校規模適正化検討委員会の協議等

主な意見等 現状と見直しについて

- ・各学校は、矢吹中学校が本町のほぼ中央に1校配置されているが、**小学校は、4つの学区ごとに1校**が配置され、また、小学校区ごとに4つの幼稚園が近接地に配置されている状況。
- ・善郷小学区以外の3学区について、児童数の減少が進行しており、今後も緩やかな減少が想定される。
- ・特に、三神小学校では、令和13年度には、複式学級の基準規模となる可能性がある。
- ・児童生徒、保護者、地域住民等に行った**アンケート調査では、7割以上の方が、小学校の再配置（統合等）に肯定的な意見を**いただいている。
- ・学校施設の老朽化対策については、「第7次矢吹町行財政改革大綱」を踏まえた計画の検討が必要

主な意見等 目指していく姿について

- ・矢吹町教育大綱の理念「**緑豊かな大地に主体的に生きる心豊かな人間の育成**」に基づき、子どもたち一人一人に「**確かな学力**」、「**豊かな心**」、「**健やかな体**」を育むことを目指す。
- ・長期的な視点で、子どもたちにとってより良い学校教育の環境を整備する必要がある。
- ・アンケート結果では、小学校では、「**学力・体力の向上**」、「**安心安全な環境**」、「**友だちづくり**」が重視されている。

主な意見等 再配置（統合等）について

- ・町全体として、**小学校の統合等の意識は薄い**。
- ・複式学級は望ましくないが、小規模校はメリットもある。
- ・子どもの安全が第一、校舎の老朽化対策は必要。
- ・財源の確保と長期的な計画が必要。

■令和6年度 適正化検討委員会で方向性を確認した事項

- ①町立小学校の1学級あたりの児童数及び1学年あたりの学級数
⇒ **理想的な学級編成は、1学級あたり「21人～25人」、1学年あたり「2～3学級」。**
- ②町立小学校の再配置（統合等）の必要性
⇒ **将来的に小学校の規模が小さくなることが予想され、再配置（統合等）を実施することで適正規模に近づけることが必要。**

■現段階で見えてきた課題

- ①**通学支援**
再配置により、学校が遠くなる可能性があり、スクールバス等の通学支援が必須とする意見が多い。また、駐車場や交通環境の整備等についても検討が必要
- ②**地域との関わり**
再配置においても、地域と学校との関わりを継続することが重要であり、再配置の必要性や進め方について地域との対話を重ねながら検討を進める。
- ③**スケジュール**
統合を進めていくための条件整備、再配置に係るコスト、予算の検討が必要
- ④**その他**
幼少中の連携、既存施設・跡地の活用、教職員の体制、多様性への合理的配慮等